



# 藤原ダムは、今年で50歳。これからもがんばるぞ！

「川の子ども新聞」は、今回で20号。記念の号にちなんで、同じように記念を迎えるダムを見つけたよ。それが、藤原ダム。管理が始まって今年で50年になる歴史のあるダムだ。現役でがんばっている藤原ダムのヒミツを探りに行ってきたよ。



## ●子ども記者

- 右から
- 関川 千乃さん (伊勢崎市立赤堀東小6年)
  - 齋藤 麻里那さん (玉村町立玉村南小5年)
  - 山口 真季さん (伊勢崎市立赤堀小5年)
  - 小池 浩太郎くん (前橋市立桃井小6年)
  - 金澤 有記くん (前橋市立桃井小2年)
  - 後藤 智紀くん (前橋市立桃井小6年)

## ●50年の歴史がある藤原ダム

子ども記者を乗せたバスは、みなかみ町の藤原ダムに向かって走り出した。藤原ダムは、利根川上流ダム群のうちで一番最初につくられたダム。1952(昭和27)年に建設が始まり、57(昭和32)年に完成し、今年で50歳を迎えるという歴史のあるダムなんだ。みなかみ町の市街地に一番近いダムでもあるんだよ。

## ●きっかけはカスリーン台風

くねくね山道、緑のトンネルを抜けると目の前

に広がる大きな湖。いよいよ藤原ダムに到着。キラキラ輝く湖面に「わー、キレイ」と歓声が上がった。ダム湖の脇に建つのが「藤原ダム管理支所」。まずはここで、藤原ダムについて教えてもらったよ。お話をしてくれたのは、管理係長の松本克宏さん。藤原ダムをつくる直接のきっかけは、1947(昭和22)年のカスリーン台風。この台風の影響で利根川や荒川などの堤防が壊れて、県内はもろろん埼玉県や東京都にかけて広い地域で被害が出たんだ。そこで、ダムをつくって計画的に洪水を調節しようということになった。ほかにも電気をつくったり、かんがい用水を確保する目的を果たすダムとして建設されたんだ。



説明してくれた松本さん



管理が始まって50年。藤原ダムは、今でももちろん活躍中。計画どおり川の水をあふれさせないよう調節をしたり、田んぼや畑に使う水を流したり、夜はダムの水を吸い上げて玉原ダムにため、昼はそれを落として電気をつくったり、毎日休まず働いているよ。

ダムの形式は、コンクリートの重さで水を止める重力式ダム。上流にある矢木沢ダムはアーチ式ダム(上から見るとアーチ型をしていて、水圧をアーチの両端と下の岩でささえる)、奈良俣ダムはロックフィルダム(岩石や砂利を積み上げてつくったダム)だから、この周辺だけで代表的な3つのカタチのダムが見られるんだって。この夏、行ってみるといいよ！

## ●雨が降ると調節が大変な制御室

次は制御室を見学。大きなパネルでは、上流にある奈良俣ダム、矢木沢ダム、須田貝ダムなどにたまった水の量や、降っている雨の量などが分かるようになっていて。雨が降ると上流から水がたくさん流れてくるから、その分、水の量を調節するのは大変なんだ。

藤原ダムから水を流すには、大きな3つのクレストゲートを開く。この制御室にあるダム放流制御装置という機械でゲートの開け閉めを操作するんだけど、鍵を差さないと動かせないようになっている。

ライブカメラで映し出された下流のようすを見ることができたよ。ダムからたくさん水を流すとき、周辺の安全を確認するためにはなくてはならないものなんだ。そのほかにも注意を呼びかける警報標示板がある。警報標示板は、藤原ダムから渋川まで約50キロの間に45カ所もあって、水位が上がると30分前くらいに警報で知らせることになっている。ダムから水を流すということは、人の安全を一番に考えて行う慎重な仕事なんだね。



いろいろな機械が並ぶダムをコントロールしている制御室

## ●心配された今年の水不足

ダムは、毎年この時期、豊かな水に恵まれてたびたび放流もしている。でも、この冬は雪があまり降らなかつたから雪解け水も少なく、見学した日(6月16日)の貯水量は満水時の40%程度なので、まだ放流はしていない。「水を大切に」という言葉が、本当に身にしみるね。

それから、ダム湖の中には、ヤマメ、イワナ、コイ、ウグイ、ワカサギなどの魚が、周辺にはカモシカやクマやサルが住んでいるんだって。ここにはいろいろな生き物が住む自然豊かな場所なんだ。ほかにはどんな生き物がいるんだろう？ も

## ●藤原ダム探検隊



クレストゲートの上の部屋の中。大きな歯車が6個あって、太ーいワイヤーが巻きついている。これで重たいゲートを吊り上げるんだ



クレストゲート

「中はどうなっているの?」「何があるの?」「みんなドキドキ。すると、特別に見せてくれること

### ●クレストゲートの上を探検

ところ。到着したときからみんなが気になっているもの。それは、ダムの水を放流するクレストゲートの上にある屋根付きの家のようなところ。」「中はどうなっているの?」「何があるの?」「みんなドキドキ。すると、特別に見せてくれること



大自然に囲まれた藤原湖。いつもより水量が少ない。左奥の建物が藤原ダム管理所

最後、ダム堤体の中を案内してもらった。この日、外は真夏のような暑さだったけど、ダムの中はひんやり。温度計を見ると14・5度。一年を通して温度はだいたい同じだから、冬は逆に暖かく感じるんだって。長い長い階段を下ってダムの一番深いところへようやく着いた。帰るには、今来たのと同じ数だけ階段を上らなくちゃならないのかな。エレベーターがあれば楽だけど、50歳のダムにそれは望めないなあ、と諦め気分でしたら「エレベーター、ありますよ」と松本さん。ダムができた当時はなかったけれど、点検をするときの安全を考



ダムの中の長い急な階段を下りて行く。まさに地底探検だ!

えて1985(昭和60)年につくられたんだ。50年の間には、設備も変化しているんだね。エレベーターはふつう上下に動くけれど、藤原ダムのエレベーターは斜めにそって斜めに動くタイプ。こんなエレベーターは初めて!ダムで働く人は、2人以

### ●長い階段を使ってダム底へ

になつた。長い階段を、まだ上るの?」「下を見ると怖い!」など、みんなキーンキーン言いながら進んでいく。ようやく着いたところは、クレストゲートを引き上げるための歯車が入った部屋。歯車の隙間からわずかにダム湖のぞけるんだ。ゲートの長さは、16・5メートル。これは、5階建てのビルの高さ。天井を3メートルとした場合に相当する。3つのクレストゲートから流すことのできる水は、最大で1秒間に約4000トンにもなる!

### ●歴史あるダムを訪ねてみて。

真季さん「ダムの中のエレベーターが、上下ではなく斜めに動くのが変わっていてもおもしろかった」



ダムの中は涼しくて天然の冷蔵庫みたいだ

浩太郎くん「ダムをちゃんと見たことがなかったけれど、改めて見て大きさと深さにビックリした」

麻里那さん「つくってから50年も経っているダムが今でも働いているのはすごいと思った」

千乃さん「ダムの中は、湿ってなくて快適なのかと思っていたけれど、ひんやり冷たくて想像と違った。見られて良かった」

有記くん「ダムが大好き。今日は中に入れて、ダムの底まで行けてとてもうれし。また来たい!」

智紀くん「ダムの中に階段がたくさんあるのが驚いた。数えたら195段もあった。ここで働く人が、毎日この階段を上り下りして点検するのはすごい」

### 「川の子ども新聞」第20号記念インタビュー

●第20号を記念して、初代の子ども記者2人(第4号に登場)に話を聞いたよ。

子ども記者をしたときの2人(2003年7月)



しまだ さき  
島田紗希さん  
当時=前橋市立細井小6年、  
現在=高校1年



にしやま まりえ  
西山真理絵さん  
当時=前橋市立細井小6年、  
現在=高校1年

—子ども記者をやってみて、どうだった?

西山 楽しかったし、勉強になりました。帰りに寄った利根川の河原で、はしゃぎすぎて川に落ちてしまったのを覚えています。

島田 良い思い出です。あの時は学校でもずいぶん話題になりました。

—これから子ども記者になる人へひと言

西山 楽しんで多くのことを学んでほしい。

島田 いろいろなことを経験してほしい。

—川の子ども新聞に対してひと言

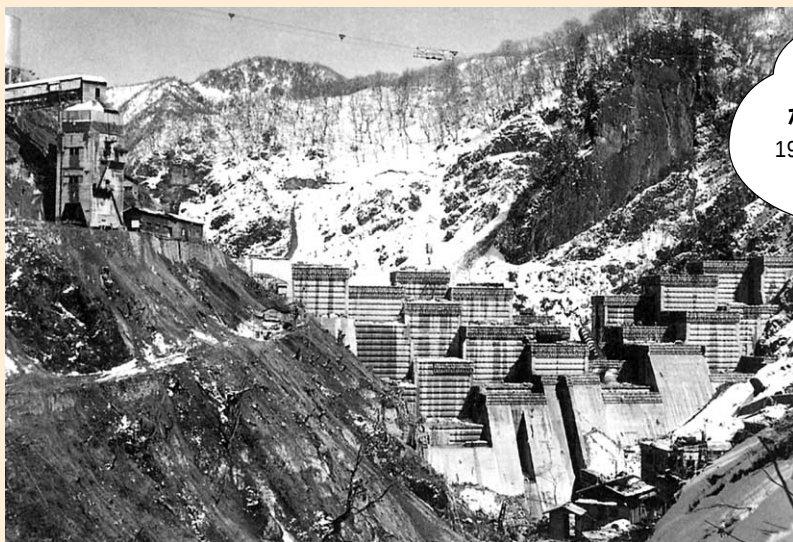
西山 100号までがんばってください。

島田 季節に沿った話題をもっと盛り込んで。



現在の島田さん(左)と西山さん

—いま関心のあること  
西山 地球温暖化はとても問題だと思う。  
島田 ポイ捨てなどよくないこと。また、節電など心がけたい。  
—どうもありがとう



建設当時の藤原ダム=1956 昭和31 年3月



現在の藤原ダム

藤原ダムは、  
1952(昭和27)年  
から建設を開始し、  
1957(昭和32)年に  
完成したんだ。

